

**平成 28 年度末に活動を満了される組織の皆さんへ（ご注意）**

多面的機能支払交付金については、原則、単年度決算としています。

すなわち、特に理由のある持越等を除いては、毎年度3月末に残高0円となります。

そこで、預金の利息計算については、8月と2月に行われていますが、仮に2月第3日曜日以降に残金があった場合、その利息は、翌年度の8月に計上されます。

よって、（次年度も活動を継続する組織については、特に問題ありませんが、）活動期間を満了する組織（次年度以降の活動中止）の場合、その利息分は翌年度の収入とみなされ、国へ返還することとなります。

このことから、対応としまして、次の方法が考えられます。

- ① 利息精算により、3月末に利息を受け取り、精算（残高0円）する。（通帳解約）
- ② 決済用普通貯金口座に変更する。（利息なし）



【参考】（JAバンクの利息計算）

毎年8月と2月の第3日曜日の計算、翌週の月曜日に入金

※ どちらの手続きについても手数料は必要ありません。

**平成 28 年度 山口県日本型直接支払第三者委員会（第 2 回）**

去る1月26日（木）県庁農林水産会議室において、本年度第2回目の第三者委員会が開催されました。この委員会は、山口県における日本型直接支払交付金（多面的機能支払・中山間地域等直接支払・環境保全型農業直接支払）の交付が計画的かつ効果的に実施されるよう、取組状況の点検及び効果の評価を行い、施策に反映させることを目的に有識者により設置されています。それぞれの交付金に係る平成28年度実績見込み及び事業推進状況が報告されました。

また、多面的機能支払交付金については、本年度で3年目を迎えたことで「中間評価」のとりまとめが行われました。その結果、この取組により、「地域資源の保全」や「農業用施設の機能推進」の効果が高い評価を得ました。

そして、今後の取組方向として、広域化による体制強化を図るとともに、事業推進をすることが確認されたところです。なお、平成30年度（5年目）には施策評価が実施され、次年度からの施策へ反映される予定です。



※山口県日本型直接支払第三者委員会 のメンバーは、山口大学（2名）、山口県立大学、山口新聞、山口経済研究所、山口県地域消費者団体連絡協議会、やまぐち農林振興公社の代表者 計7名で構成されている。委員長は、山口大学名誉教授 小川全夫。

## 「第18回食料・環境・ふるさと写真コンテスト」 入賞作品決定

平成29年1月24日(火)「第18回食料・環境・ふるさと写真コンテスト」(食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議、水土里ネット山口、山口県主催、山口新聞社など後援)の作品審査が水土里ネット山口(山口市糸米)であり、入賞・入選作品が決定した。

最高賞の山口県知事賞には、画題「八十八夜の頃」として、宇部市小野地区に広がる初夏の青々とした茶畑と茶摘み機の姿をとらえた作品が選ばれた。

また、水土里ネット山口会長賞には、下関市菊川町において今ではあまり見かけなくなった「ウダ」という独特の漁具を使った「ため池の魚とり」。山口新聞社賞には、長門市三隅下野波瀬の漁港で年末に出荷のため水揚げされる寒ブリを撮影した「寒ブリの出荷」。中国新聞防長本社賞には、ここ近年、めっきり見かけなくなった水車の回る農村風景を被写体とした「水車」の作品が選ばれた。

同コンテストは農山漁村の良さを再発見してもらおうと、農村漁村のすばらしい自然や文化、そして、心を癒やすすらぎのある農村景観。また、農林水産業に営む人々や生き物たちの豊かな表情や子供たちの澄みわたる笑顔など「水・土・人・暮らし」をテーマに作品を募集している。一般の部と児童・生徒の部の合計515点が寄せられた。県地球人会議の会長を務める福田百合子・中原中也記念館名誉館長や写真家の栗林和彦先生ら審査委員8人が、一般の部で入賞5点、入選12点。児童・生徒の部で入賞4点、入選2点を選んだ。入賞・入選作品は3月6日から同31日まで山口県庁1階エントランスホールで展示される。

山口県知事賞「八十八夜の頃」



山口新聞社賞「寒ブリの出荷」



中国新聞防長本社賞「水車」



水土里ネット山口会長賞「ため池の魚とり」

